



シャッター 切断 緊迫の救助訓練

解体中の旧東濃信用金庫本店(多治見市本町)で4日、解体作業に当たっていた男性が閉じ込められた想定

多治見南消防署

旧東濃信用金庫本店を活用



要救助者に見立てた人形を2階窓から下ろす隊員たち＝同

解体中の閉じ込め事故想定

の救助訓練が行われた。多治見南消防署(同市三笠町)の特別救助隊員はシャッターを切断するなどして要救助者の元へと向かった。

「大丈夫ですか。シャッターを切るのできるだけ離れてください」。

隊員はシャッター越しに大声で注意を呼び掛け、エンジンカッターを使って人が1人通れるような大きさの入り口を開けた。容体を確認した後、要救助者に見立てた人形を2階の窓からロープとはしごを使って地上へと下ろした。

今回の訓練は東濃信用金庫と解体を担当する清水建設の協力で実施し、特別救助隊員ら11人が参加した。現場を指揮した隊長は「実際に使われていた建物で訓練できることは珍しく、より実践に近い内容の訓練ができた」と振り返った。(織部俊太郎)

火花を散らしながらシャッターを切断する隊員
＝多治見市本町、旧東濃信用金庫本店